

認定こども園やはたみずのとう幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	ページ
運営法人情報	P1
理念・基本方針	
施設の特徴的な取り組み	
第三者評価結果の総評	P2
第三者評価結果	P3～14

【運営法人情報】

施設名称	認定こども園みずのとう
運営法人名称	学校法人八幡学園
施設種別	幼稚園型・年齢区分型認定こども園
代表者氏名	園長 関 政子
施設所在地	〒165-0022 東京都中野区江古田1-1-1
電話番号	03(3953)4417
FAX番号	03(3953)2013
ホームページアドレス	y-mizunotou.com
事業開始年月日	平成22年4月1日
教職員・従業員数	教員22名(兼)1名、保育士5名(兼)1名、 職員4名(兼)6名
施設・設備の概要	敷地面積1,901平米 建物面積1,162平米

【理念・基本方針】

神社神道の敬神崇祖のこころを基に、健康な身体とまろやかな心を作る

【施設の特徴的な取り組み】

両親が働く家庭の子どももそうでない家庭の子どもも等しく幼稚園の学級の仲間として、幼稚園生活を送ることを第一義に考え、幼稚園時間の前後に長時間保育児が家庭的な時間を過ごすことができるよう、幼稚園時間の保育室から場所を移動し、衣服を着替え、担任も変わる。

【評価機関情報】

評価機関名	(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	平成28年1月
評価者	(教育・保育評価委員) H27A00327 (運営管理評価委員) H27B00126
公開保育コーディネーター・支援者	認定第250013号

【総評】

●総合評価

評価〔A〕

教職員間で「子ども達が主体的に」という認識を共有し、子どもの主体性を育てるよう、教材（遊び）研究や環境構成を充実させる取り組みが素晴らしい。

又、子ども集団の中で子ども達が関わり合い、育ち合えるよう、個々の子どもの思いを尊重した、きめ細やかな保育が行われている。

以上のような物的にも人的にも豊かな環境の中で、子どもが元気に生き生きと育つ保育が展開されている園である。

●特に評価が高い点、園の良さ等

子ども達の未来を見据え、「子ども達が主体的に」という認識を教職員間で共有し、保育が展開されている。そして主体的な育ちを育むために、教材（遊び）研究、環境構成にも力を入れている点が素晴らしい。

●課題、改善を求められる点

子どもの主体性を育む上で非常に重要な「環境」を多角的な視点から考えていくことが必要であろう。又、保育の基本となる子ども理解のあり方や設定活動におけるクラス全体の「相談」の持ち方、子どもの導線考えた「場」の設定の仕方等の課題を園内で共有し、解決を図る必要がある。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

公開保育を行い当日に頂いた問いへの応答や、園の良さや教職員への肯定や励ましなどにより教職員間の同僚性が高まり、課題が共有できPDCAに新たな視点をもたらしたと思っていたが、第三者評価を頂き、学園として、園として、願い努力している教育・保育内容の方向性や教職員の姿勢に対し評価いただいたことで、皆で自己肯定感を持たたと感じる。課題に対してもスタッフ皆で共有でき、経験の多少に拘らず、前向きな意見を忌憚なく出し合う園内研修ができ、その素地が確立されつつあると感じる。日々の実践の中から保育の質をより高められるよう、多面的多角的に見直しや改善を図りたいと考えている。

第三者評価結果

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

良さとしては子ども同士の関わり合い、元気に生き生きと育っていることや子どもの思いを尊重した保育等が挙げられた。

課題としては、自由な遊びの充実、設定保育の環境や保育者の働きかけ（が適切であるのか）、教職員同士の連携などが挙げられた。

2. ①公開保育実施時の課題等

公開保育は以下の具体的な課題を設定した

A 自由な遊び

「主体的に遊べる環境が用意されているのか」「遊びの広がりはどうか」など環境設定について

B 設定活動

「落ち着いて参加できているか」「クラスの活動に主体的に参加しているか」など保育者の援助について

C 教職員の連携

遊びの連携 怪我の伝達 気になる子の対応など

②公開保育後のカンファレンスにおける外部から見た良さや課題

実際に保育を公開することにより、『健康な身体と、まろやかな心をつくる』という教育理念がしっかりとした形で位置づいていることが感じられた。また、子ども同士が関わり合い、元気に生き生きして育っている姿がいろいろな場面で見られた。

廃材の利用の仕方、思いを込めたコーナー設定の仕方、子どもの思いを尊重した保育や、気になる子や遊びに取りかかれない子への対応を園全体で考えていることなど。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

公開保育後の振り返りにおいても、出てきた課題を「課題度」と「充実度」に並び替えたり、「時間軸」で「取り組みへの軸」を整理したりすることで、教職員が共通の意識をもって取り組む方向が見えてきた。自由な遊びでの片付けの声かけの仕方や子ども自身が展開できる遊び環境の設定の工夫など活発な意見が出てくるようになり、学び合う組織的な取り組みになってきている。さらに教材研究や一斉指導の学年間の協同という問題にも広がり、保育の質の向上につながるものと考えられる。

今後は、幼児期の教育のあり方について、さらに多様な視点から研修や研究を重ねることを通して、それを保護者や社会に発信されていくことが期待される。

II. ヒアリング等・書面等による評価

<A 教育・保育>

①子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての喜び）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子どもに、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解する取り組みを行っている。又、子ども理解のための個別の記録を作成し適切に管理されて保育者に周知されている。</p>		

②保育者の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができています。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>外部の研修に積極的に参加するとともに、園の保育理念を具現化するべく、保育における日々の課題を保育者間で共有し、話し合いの中で解決している。</p>		

③子ども理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育の基本である、子ども理解については、様々な手法により多面的に理解するように努めていることが確認された。また、保育参観、保護者会活動等の機会を設け保護者とも共有を図っていることが確認された。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の様態から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>教育課程と指導計画は、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領等に即して作成されている。又、週案、日案等で計画されたことは、実践の振り返りを基に、翌日、翌週の実践へとつながっていることが確認された。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>民営化に際して全面的に改装を行い、「子ども達が主体的に」という認識に立って、環境構成に力を入れ、子どもたちが遊び込むことができる環境が工夫されている。また、十分な量の絵本や教材が揃えられ、豊かな環境となっている。</p>		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	済・未
2	<p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にす気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未
4	<p>子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未

5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>公開保育の多くの参加者からの発言から、やはたみずのとう幼稚園の教諭等が適切な援助を行っていることが確認された。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>カンファレンスやケース会議の記録や行事計画案・行事反省会記録等の記録を確認しヒアリングを行った結果、園として記録を継続・共有する仕組みが有効に働いていることが確認された。</p>		

④家庭・地域連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>これまでの区立幼稚園の歴史を引き継ぎ、地域の子育て支援センター、保護者が子育てについて気軽に話し合える連携や交流の場となっていることが確認された。</p>		

公開保育コーディネーターからの報告

やはたみずのとう幼稚園は、平成22年に区立幼稚園から幼稚園型認定こども園に変わった。教育理念・建学の精神は、母体である「やはた幼稚園」と同様で、「健康な身体・まろやかな心をつくる」である。1号認定児から3号認定児がともに生活している。今年度「子ども達が主体的に」という認識に立って、教材開発、環境構成に力をいれ、教職員で共通理解を図っているところであった。課題としては、コーナー保育の充実・チーム保育の中で教職員同士の情報の共有・異年齢の関わりや支援児への対応があがった。本園は自由な遊びを充実するというを大切にしているが、公開保育実施のこの時期は、クラスの設定活動の中で、劇の発表会に向けての活動がはいっていた。

公開保育に向けては3つの課題を設定した。①自由な遊びが充実しているか ②設定保育の環境や保育者の働きかけが適切であるのか ③教職員同士の連携などである。そのため、これらの課題を公開保育にて第三者評価を受けるためにさらに次のように具現化した。

A 自由な遊び

- * 「主体的に遊べる環境が用意されているか」「遊びの広がりはどうか」など環境設定について
- 年少ー自分の好きなことを見つけて遊んでいるか
- 年中ー友達や他の学年の遊びに影響を受けながら遊びを広げているか
- 年長ーお互いに意見を出し合いながら遊びを進め、友だちとのかかわりを深めているか

B 設定活動

- * 「落ちついて参加できているか」「クラスの活動に主体的に参加しているか」など保育者の援助について
- 年中ー物語を楽しみ、自分の思いを共有できていたか
- 年長ークラスの活動に意欲的に取り組んでいるか

C 教職員の連携

- * 遊びの連携 怪我の伝達 気になる子の対応など

上記に示された通り、幼児期の教育が「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」ことを踏まえ、主体性を育むための「環境による教育」の質の向上をどのように取り組めばよいのか（視点A）、子ども自らが主体となって生活をし、子ども同士より育ちを深めていくためには教師としてどう取り組めばよいのか（視点B）、さらには、「互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、決まり事の必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること」（視点AやB）といった視点、また保育の質を高めるためにも教職員の情報の共有（視点C）など、現行の改訂のポイントとなる点に焦点を当てているが、これら幼稚園教育要領の基底をなす理念を、課題の把握から組織として具体的に意識化・共有化するために取り組み話し合いを進めてきた。

実際に保育を公開することにより、やはたみずのとう幼稚園の「仲間との体験生活をとおして、自己肯定感を持ち、人と協力し合いながら主体的に行動する子どもを育てたい」という園長先生のお考えである『健康な身体と、まろやかな心をつくる』という教育理念がしっかりとした形で位置づいていることが感じられた。また、子ども同士が関わり合い、元気に生き生きして育っている姿がいろいろな場面でみられたこと、廃材の利用の仕方、思いを込めたコーナー設定の仕方、子どもの思いを尊重した保育や、気になる子や遊びに取りかかれない子への対応を園全体で考えていることなど、良さを確認するよいチャンスとなった。さらに、保育における「環境」を多角的な視点から考えていくことの必要性や、子どもを捉える保育者の子ども理解のあり方や、設定活動におけるクラス全体の「相談」の持ち方、子どもの動線を考えた「場」の設定の仕方、自由な遊びと設定活動のつながりを意識する必要性などが課題としてでてきた。

公開保育後の振り返りにおいても、出てきた課題を「課題度」と「充実度」に並び替えたり、「時間軸」で「取り組みへの軸」を整理したりすることで、教職員が共通の意識をもって取り組む方向が見えてきた。自由な遊びでの片付けの声かけの仕方や子ども自身が展開できる遊び環境の設定の工夫など活発な意見が出てくるようになり、学び合う組織的な取り組みになってきている。さらに教材研究や一斉指導の学年間の協同という問題にも広がり、保育の質の向上につながるものと考えられる。

今後は、幼児期の教育のあり方について、さらに多様な視点から研修や研究を重ねることを通して、それを保護者や社会に発信されていくことが期待される。

< B 運営 >

① 運営体制

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未	
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未	
3	会計事務を適切に行っている。	済・未	
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未	
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未	
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未	
7	学校評価を実施している。	済・未	
8	適正な法人運営を行っている。	済・未	

(コメント)

公立幼稚園を認定こども園として民営化する事業を引き受けた後、毎年施設の改善に努め、公立幼稚園時代と全く違う園舎に上手く改築している。子どもの視点に立った運営体制が気づかれており、適切な法人運営が行われている。

②安全管理

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未	
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未	
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未	
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未	
<p>(コメント)</p> <p>古い建物を改築するにあたり、子どもが安全に生活できる導線が良く考えられている。子どもにとってより安全なものに改築する視点、より安全な使い方をしているかなどの保育者の視点は子どもの安全を第一に考え実施されている。</p>			

③子育ての支援

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。	済・未	
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。	済・未	
<p>(コメント)</p> <p>保護者だけでなく、地域の方々が利用しやすいよう工夫されている。ただ、道路を挟んで向かい側は中野区と異なるため、行政区域を超えた利用の仕組みを検討する必要がある。</p>			